

3. 評価指標について

ステップ3では「評価指標」を設定します

- 4～5ページの「2. 対策案検討の基本的考え方」に基づいて検討する複数の対策案の中から、より良い案を選ぶにはどの案がどの点で優れているかを比較する必要があります。
- そのため、ステップ2では、複数の対策案を比較するための評価の視点（評価項目）を、県民の皆さまからご意見をいただきながら、検討しました。
- ステップ3では、ステップ2で設定された評価の視点ごとに、評価の「ものさし」となる評価指標を検討します。
- ステップ4以降では、ステップ3で検討された複数の対策案について、評価の「ものさし」を用いて比較評価し、より良い案を選定していきます。
- なお、対策案は、5ページの「対策案検討の進め方」のとおり骨格軸を柱に、フィーダー交通についても骨格軸の機能発揮に資する観点から検討を行うことから、評価はフィーダー交通による効用を踏まえ、骨格軸について行います。また、本計画案の検討は、概ねのルート等について検討を行う構想段階にあることから、複数の対策案の評価にあたっては、県民と情報共有を図りながら、相対的な比較優位性を中心に確認を行います。

ステップ2でいただいた県民意見
<評価の視点(評価項目)について>

- ◆「県土の均衡ある発展」や「県民及び観光客の移動利便性の向上」など事業の効果について評価してほしい
- ◆「費用対効果」や「採算性」の視点で評価してほしい
- ◆「自然環境」に最大限配慮してほしいなど

評価指標は、評価の「ものさし」!!

- ①「評価の視点（評価項目）」ごとに、いくつかの「評価指標」を設定しているよ。
- ②「評価指標」とは、実施する対策の効果等を測る「ものさし」なんだ。
- ③この「ものさし」で測ることで、対策案それぞれの特徴がわかるんだよ。

右のページに、評価の視点ごとに、設定した評価指標の説明があるので見てね!



コラム：那覇空港の第2滑走路も複数案を比較評価しました

- いくつかの対策案を評価指標を用いて比較評価する方法は、公共事業で一般的に行われています。
- 現在建設が進められている那覇空港の第2滑走路も、増設案を検討する際に「評価指標」を用いて複数案を比較評価しました。
- 「那覇空港プロジェクト」における構想段階の取組や現在の進捗状況の詳細については、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.dc.ogb.go.jp/kyoku/information/nahaakuoku/>



那覇空港第2滑走路完成後のイメージ

評価指標（ものさし）の内容

事業の効果・影響

○対策案ごとに、事業の目的が達成されるのか、また、どのような効果・影響があるかを、将来の姿の実現等を図る観点から設定された以下の(1)～(5)の視点で整理。

(1) 県土の均衡ある発展

- 那覇～主要都市間の所要時間
 - ・那覇と主要都市間の所要時間を算出し、那覇市からの移動時間を確認
- 拠点都市から30分(60分)圏域内人口
 - ・拠点都市から30分(60分)圏域内の人口を算出し、通勤や通学できる範囲を確認 など

(2) 県民などの移動利便性向上

- 県民及び観光客の公共交通利用者数
 - ・県民及び観光客の公共交通利用者数を予測する など

(3) 公共交通の整備による交通渋滞緩和

- 公共交通への利用転換者数
 - ・自動車利用から公共交通利用へ転換する人数を予測し、交通渋滞緩和への寄与の程度を確認 など

(4) 世界水準の観光リゾート地の形成

- 那覇～主要観光地間の所要時間
 - ・那覇と主要観光地間の所要時間を算出し、観光客の移動時間を確認 など

(5) まちづくり

- まちづくりへの寄与（インパクト）
 - ・公共交通と連携した基地跡地のまちづくりに寄与できるか確認
 - ・観光振興を支えるまちづくりに寄与できるか確認 など

費用便益分析

- 費用便益比
 - ・道路混雑緩和や所要時間の短縮などの便益を貨幣価値に換算して、事業費（費用）と比較



採算性分析

- 累積資金収支黒字転換年
 - ・事業主体が黒字になるか、何年後に黒字化するか

事業性

- 事業費
 - ・事業費はどの程度か
- 工事期間
 - ・工事期間はどの程度か
- 事業実施にあたっての留意事項
 - ・地形や地盤、用地の確保、災害などの課題に対して配慮することは何か

環境

- 環境への影響及び配慮事項
 - ・自然環境や生活環境等への影響について、配慮することは何か

※評価指標の詳細については、技術検討委員会・計画検討委員会の資料をご覧ください(ホームページに掲載)。